

ひょうごビジョン2050

兵庫がめざす社会像を示した「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年、改訂から10年がたちました。大きな社会変化により、先の見通しがますます難しくなる中、コロナ禍でさまざまな問題も浮き彫りになりました。

そこで、県では兵庫のめざす姿を改めて明らかにするため、県民の皆さんとの意見交換を積み重ね、30年先の2050年ごろのめざす姿を描いた「ひょうごビジョン2050」を策定。今後、県が進める施策の羅針盤として運用していきます。

新しいビジョンについて
詳しくはこちら



ビジョンの役割

- ▶ 県民が共にめざす姿を描く
- ▶ 県民が主役になり、地域から取り組む
- ▶ 変化を生み出し、成長する

1万人を超える県民の想いが反映されています

各地で開催した「地域未来フォーラム」や「ビジョン出前講座」、市町との意見交換、県民アンケート、パブリック・コメントなどで1万人を超える県民の声を聞きました。皆さんから寄せられた意見を基に有識者、団体代表からなる審議会に新ビジョンの案を諮り、議会の議決を受け、策定しました。

渡り鳥のようにそのとき一番気持ちよい場所で働きたい

人づくり=未来づくり。子どもの教育が一番大事

「起業」が「就職」と同じぐらいの選択肢として普通にある社会を

これからの主流は、効率化・標準化されていないローカル経済。顔の見える経済だ

皆さんが描く
これからの
兵庫

泣いている子どもがいたら声を掛ける、困っているお年寄りがいたら手を差し伸べる、温かい社会を

モノを大切に使い続け、お金より心の余裕を大事にする暮らしを

まちづくりでこれから大事なものは、他人任せではなく、自分らで考え、自分らでやること

ビジョンの実現に向けて

県民の皆さんの想いに共通する「開放性」の高い社会への願いを意識し、「大きな連携の輪をつくる」「試行錯誤のプロセスを楽しむ」「地球規模で考え、足元から行動する」「バーチャルを使いこなし、リアルを大切にする」の4つの基本姿勢で取り組みます。

インタビュー

県の将来構想研究会の委員として1年半、新ビジョン企画委員会の委員長として1年、新ビジョンの検討に携わった甲南大学教授の石川路子さんに伺いました。



それぞれが自分の未来を前向きに考えるヒントがたくさん盛り込まれています

分かりやすく、メッセージ性の強いビジョンになりました。キーワードの「包摂」は、フラットな関係の中で、みんながみんなのことを考える・包み込む姿勢を意味しています。それにより新しい気付きが生まれ、知らなかった世界に飛び込んでみよう・挑戦してみようという気持ちになる。「包摂」と「挑戦」はセットだと考えています。

このビジョンには、県民が自分の未来を前向き

に考えるときの材料が盛り込まれています。これを読んで、一つでもいいから挑戦できそうな場を見つけ、チャレンジしてほしい。頑張っていたら、周りがフォローしてくれる。それが兵庫という地域の良さです。

いろいろな立場の人がいるからこそ、対話が大切。その素材として、県民の想いが詰まった宝物みたいなこのビジョンを使ってほしいですね。

2050年の兵庫の姿

誰もが希望を持って生きられる

包摂

×

一人ひとりの可能性が広がる

挑戦

↓

「躍動する兵庫」

躍動

5つのめざす社会

I 自分らしく生きられる社会

- ① 自由になる働き方
- ② 居場所のある社会
- ③ 世界へ広がる交流

II 新しいことに挑戦できる社会

- ④ みんなが学び続ける社会
- ⑤ わきあがる挑戦
- ⑥ わきたつ文化

III 誰も取り残されない社会

- ⑦ みんなが生きやすい地域
- ⑧ 安心して子育てできる社会
- ⑨ 安心して長生きできる社会

IV 自立した経済が息づく社会

- ⑩ 循環する地域経済
- ⑪ 進化する御食国
- ⑫ 活動を支える確かな基盤

V 生命の持続を先導する社会

- ⑬ カーボンニュートラルな暮らし
- ⑭ 分散して豊かに暮らす
- ⑮ 社会課題の解決に貢献する産業

県政改革方針を策定しました

県の事業や県庁組織の見直し、民間活力の導入など県政全般を見直し、県議会、県民、市町、関係団体等からのさまざまなご意見を踏まえ、このたび、令和10年度までの県政改革方針を取りまとめました。今後はこの方針の下、時代の変化に対応し、持続可能な行財政基盤の確立に向けて取り組んでいきます。

詳しくはこちら



県新行政課
☎078(362)3045
☎078(362)9478

Q1 なぜ県政改革をする必要があるのですか？

A 兵庫県では、2050年ごろになりたい姿として「誰もが希望を持って生きられる一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」を掲げています。その実現には、行財政全般にわたる改革を行い、持続可能な行財政基盤を確立する必要があります。

県政改革の
基本方針

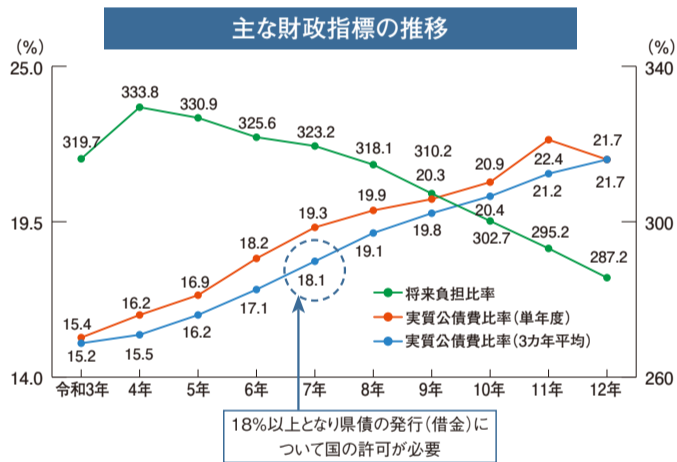
- 1 躍動する兵庫の実現
- 2 持続可能な行財政基盤の確立
- 3 イノベーション型行財政運営の実現

Q4 民間活力の活用とは何をしていますか？

A 皆さんの身近な所には、たくさんの県の施設があります。今までは、県が自ら施設を整備して運営することがほとんどでしたが、これからは、施設の整備や運営にもっと民間のアイデアや資金を取り入れていきます。早速、県営住宅の建て替えや県立公園の維持管理について、取り組みを始めました。今後は、こうした取り組みをいろいろな県の施設に広げて、皆さんが使いやすく、より良いサービスを提供できる施設を目指していきます。

Q2 兵庫県の現在の財政状況はどうなっていますか？

A 平成20年度から取り組んできた行財政構造改革により30年度以降は収支均衡を保っています。しかし、阪神・淡路大震災からの復旧・復興のために行った借金がまだ2,000億円以上残っており、これからもその返済が続きます。さらに、中長期的な税収見通しはコロナ禍もあり予断を許しません。最新の試算では令和10年度までに140億円の収支不足や財政指標の悪化が見込まれるため、今後も収支改善に取り組む必要があります。



Q5 県庁組織も変えるのですか？

A 県庁のどの部が何の業務を担当しているのか、これまでに以上に分かりやすくするため、5部から12部に体制を変更します。



Q6 今後は、どのように県政改革を進めていくのですか？

A 県政改革は皆さんのご理解とご協力なくして実現しません。県民の皆さん、県議会、市町、関係団体などへ丁寧な説明を行い、幅広い意見を取り入れながら進めていきます。また、職員もこれまでのやり方にとらわれず、自ら考え、自ら工夫することによって、県政改革に挑戦していきます。

Q3 県政改革による事業の見直しによって、県民サービスが低下しないか心配です。

A 今回の県政改革方針の特徴の一つは、「ビルドを重視した行財政運営」を掲げていることです。「ビルド」には「作り上げる」という意味があります。施策の見直しは、削減ありきではなく、新たな内容や手法への見直しに重点を置きます。例えば、県施設の広報などを目的として実施している「県民交流バス事業」について、今後は県立芸術文化施設の無料開放日を設けるなど、各施設のイベント、広報により対応していきます。

Q7 取り組みの詳しい内容は、どのように知ることができますか？

A 県政改革の取り組みの詳細は、県ホームページに掲載しています。また、今後、内容をまとめたリーフレットやSNSを活用して、幅広い世代の皆さんにより分かりやすく、丁寧にお伝えしていきます。